

中島俊克教授記念号に寄せて

中島俊克先生は長年にわたり、立教大学経済学部の教育・研究の向上と発展に尽力され、さらに立教大学の発展と充実に大きく寄与されました。その中島俊克先生の功績を讃えて、本記念号を発刊できることは、経済学部にとって大変名誉なことです。

中島俊克先生は、1996年4月に立教大学経済学部助教授として着任され、2018年3月に退職されるまで、実に22年間の長きにわたって、学問の府としての立教大学および経済学部の発展に大きく貢献されました。中島先生は着任から10年間、学部の「経営史」を担当され、2006年以降「欧州経済史」を担当されました。ゼミナールでも精力的にかつ懇切丁寧に学生たちを指導され、多くの有為な人材を社会に送り出してきました。中島先生の薫陶を受けた学生の中には、研究者となり、大学で教鞭をとっている者もいます。

中島先生は、1971年4月に一橋大学経済学部に入學され、1977年3月に一橋大学大学院経済学研究科に進まれました。1981年10月から1985年6月までパリ第四大学に留学され、博士号を取得されました。帰国後の1986年4月に一橋大学経済学部助手となり、1987年4月に京都産業大学経済学部に着任されました。同大学の専任講師、助教授を経て、1996年4月に本学経済学部助教授に就任され、1998年4月に教授に昇任されます。中島先生は1999年4月から2年間、北川和彦学部長の下で、経営学科長として学部運営に尽力されました。

中島先生が経済学部のみならず、立教大学の発展、特に全学共通カリキュラムに大きく貢献されてきたことは、ここで改めて言うまでもないことかもしれません。1998年に発足間もない全学共通カリキュラムの言語担当専門委員（経済学部選出）を皮切りに、2001年以降、研究休暇の期間を除き、中核メンバーとして、その運営に携わってきました。中島先生は2002～2005年度全学共通カリキュラム専門委員（総合）、2006～2007年度全学共通カリキュラム特別教務委員、2009～2010年度全学共通カリキュラム総合サポーター、2011年度全学共通カリキュラム総合チームメンバー、2012～2015年度全学共通カリキュラム総合チームリーダー、そして2016年度から退職まで全学共通カリキュラム副部長を歴任されてきました。立教大学の伝統的理念である全人教育に基づいて、「専門性ある教養人」を育成すべく、全身全霊をかけて取り組み、立教大学の財産である全学共通カリキュラムを支えてこられました。私は、2012～2013年度全学共通カリキュラム副部長を拝命し総合チームリーダーとしての中島先生と一緒に仕事をさせていただきました。中島先生の総合科目に対する並々ならぬ情熱と広範かつ膨大な科目を編成する強いリーダーシップに圧倒されました。その一端は、中島先生が総合チームリーダー時代に書かれた「天国と地獄」（『全カリ Newsletter』No. 32, 2012年9月27日）にてうかが

うことができます。そこでは教員が総合科目を編成することにはいかに苦労しているか、しかし、学生は多彩な科目を選択できることはいかに恵まれているか、を語り、全カリ科目を統括する者の強い責任感と使命感が伝わってきます。今日の全カリ総合科目があるのも、中島先生のおかげであります。

中島先生は、フランス経済史を骨格としつつ、経営史、技術史、労働史にまたがるフィールドで、一つ一つの史実を積み上げ、研究業績を重ねられてきました。大学院ではまず産業革命期のフランス東部・中西部の森林地帯で展開していた石炭と木炭の双方を利用する小規模製鉄工場を研究されます。修士論文の一部は、学会誌『社会経済史学』に掲載され、学界でも高い評価を受けました。パリ第四大学への留学を契機に、中島先生は新たなテーマとして、パリ機械工業史を選択され、フランス経済史の泰斗であるフランソワ・キャロン (François Caron) の指導の下、学位論文“*Industrie mécanique de Paris 1847 1914*” (『パリの機械工業, 1847 ~ 1914』) を完成させます。当時の日本の西洋経済史の分野で、海外、それも非英語圏での博士号取得は極めて珍しく、さらに機械工業史研究がフランスでも未開拓な分野だったことを鑑みれば、これがいかに瞠目すべき成果であったことがわかります。中島先生の博士論文は、フランスにおいても最初の本格的な機械工業史研究として位置づけられており、その後も中島先生は、仏・英・日の諸言語で研究を発表されてきました。中島先生は、欧米の研究者と肩を並べて国際的な舞台で活躍するという日本人の西洋経済史研究者の先駆的存在であったといえます。

中島先生は、学会活動においても中心的メンバーとして、立教大学経済学部の名誉と権威を一層高められ、社会経済史学会、経営史学会を中心に、フランス経済史・経営史の泰斗として重きをなしてきました。社会経済史学会では評議員、理事、編集委員を、経営史学会では幹事、評議員、編集委員、理事を歴任しました。とりわけ『社会経済史学』編集委員に関しては、2006年1月から2017年12月まで長期にわたり尽力され、その重責を担ってきました。

私は、経済学部教授会メンバーとして、また、全学共通カリキュラム運営センターの役員として、中島先生と酒席を共にすることが多くありました。中島先生はフランス文化に対する教養のみならず、日本の酒文化に対する造詣も深く、酒談議で盛り上がりました。例えば、日本酒の燗酒の魅力を語られるなど、私も深く共感いたしました。豪快に飲まれる姿は楽しく、私は中島先生との酒席をいつも楽しみにしておりました。その中島先生がご退職されることは、寂しさを禁じえません。

中島俊克先生がこれからもご健勝でますます活躍されることを祈念して、本記念号の発刊の辞に代えさせていただきます。

2019年3月

経済学部長 菅沼 隆